

INTAPT 参加記

長崎大学病院 救命救急センター

山下和範

昨年 10 月と本年 3 月にそれぞれ 1 週間ずつ、トロント大学で開催される、INTAPT (Interprofessional Applied Practical Teaching and Learning)に参加させていただきました。「研修指導者講習会を英語でやるだけ」「大丈夫ですよ、先生なら」など、半ば意味不明な励ましをいただきましたが、怖々の参加でした。

まず何が怖いのか。最大の怖さは、英語の講義を聞き、英語で議論しなければならないだろうということでした。内容的に指導医講習会に類似しているのであれば、議論に参加できそうですが、それを英語でとなると、、考えただけで冷や汗が出てきました。また、3 月に自分たちでワークショップを開催するために、10 月の前半終了後にあれやこれやとWEBを使って話を進めていくというのも怖さの大きな要因でした。もちろん英語で、時差を超えてコミュニケーションをとる必要があることに不安を抱きました。

旅としてこの 2 行程を考えると、10 月はトラブル、3 月は感謝でそれぞれ表せそうです。

10 月のトロントでは、トロント空港からダウンタウンに向かう公共交通手段がよくわからず、また宿泊するホテルの場所もわからずで、ハロウィーンパーティーの仮装をした若者たちが行きかう通りを、24 時過ぎにうろつくという経験をしました(当たり前ですが、地図は何らかの形で持参すべきでした)。また帰国の際は、朝早いテキサス経由便に搭乗する必要があり、トロント市内を夜中に出る路線バスで空港に向かいました。金曜の夜中ということもあり、酔っ払いが作り出す喧噪の中、スーツケースをゴロゴロさせて歩くのは、ホテルを探し歩いた時より強い不安を感じました。

3 月は、トロントに留学されている元同僚に、空港までの送り迎えをしていただき、非常に快適でした。(フロントガラスにひびが入っていたことには、恐怖を感じましたが・・・。)

2 回とも、日本から参加した仲間や元同僚と、おいしいカナダビールを傾けながら語らう時間を持つことができ、そういう点でも有意義な旅となりました。

2 週にわたって参加した今思うことは、参加できて良かったということです。十分な議論ができたとはとても思えませんが、医学教育に関して、少なくとも 2 週間はみっちり考えることができました。自分が行っている講義スタイルから、関わっている教育コースまで、その根底にあるべき概念をもう一度見つめなおす必要があり、また、実際変えていく必要があると感じました。

医学生教育、研修医教育また看護師教育に、このコースで学ばせていただいたことを活かして、よりよい教育を目指したいと思います。

最後に、このような機会を与えていただいた、新・鳴滝塾の皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

